

本検討会の方向性及び論点について

今後の検討における時間軸と方向性のイメージ

- 自動車リサイクルにおける今後の検討について、廃棄物・資源循環分野全体の検討との整合・連動も意識しつつ、下表に示す短期～長期の時間軸を念頭に、議論を実施してはどうか。
- 温室効果ガス排出実態把握は次年度以降も引き続き進め、今後の検討にもフィードバックする。

時間軸		検討のスコップ・方向性(暫定イメージ)		
		カーボンニュートラル(CN)に向けた検討	3R※の推進・質の向上に向けた検討	廃棄物・資源循環分野の検討の動き
直近	2021(R3)年度:排出実態把握検討会、資源回収インセンティブWGの実施	温室効果ガス(GHG)実態把握	資源回収インセンティブガイドライン(中間とりまとめ)	廃棄物・資源循環分野における中長期シナリオ(案)(R3)
	2022(R4)年度~:CN/3R検討会設置	GHG削減効果の考え方整理 ★GHG算定モデル案公表(R5)	JARS大改造時期も念頭に制度設計(制度開始時期見極め)	廃棄物処理システム・施設整備方針等検討(R4)
短期	2023~2025年:JARS大規模改造実装(2026年1月:本格稼働開始)	継続的に実態把握・検討にも	実行計画の策定に向けた検討	
中期	2025年頃~:自動車リサイクル法施行20年目の評価・検討に向けた審議会開催	次回評価・検討を見据え、自動車リサイクルのCN/3R※に向けた具体の施策検討、実施		2050年CN実現に向けた取組
長期	2030年~:2050年CNに向けた取組	将来の自動車の電動化推進や使い方の変革を考慮し、ELV由来のGHG排出量削減、3R※推進に資する自動車リサイクルの仕組みを構築		

(再掲)自動車リサイクルのカーボンニュートラル及び3Rの推進・質の向上に向けた検討会 論点案

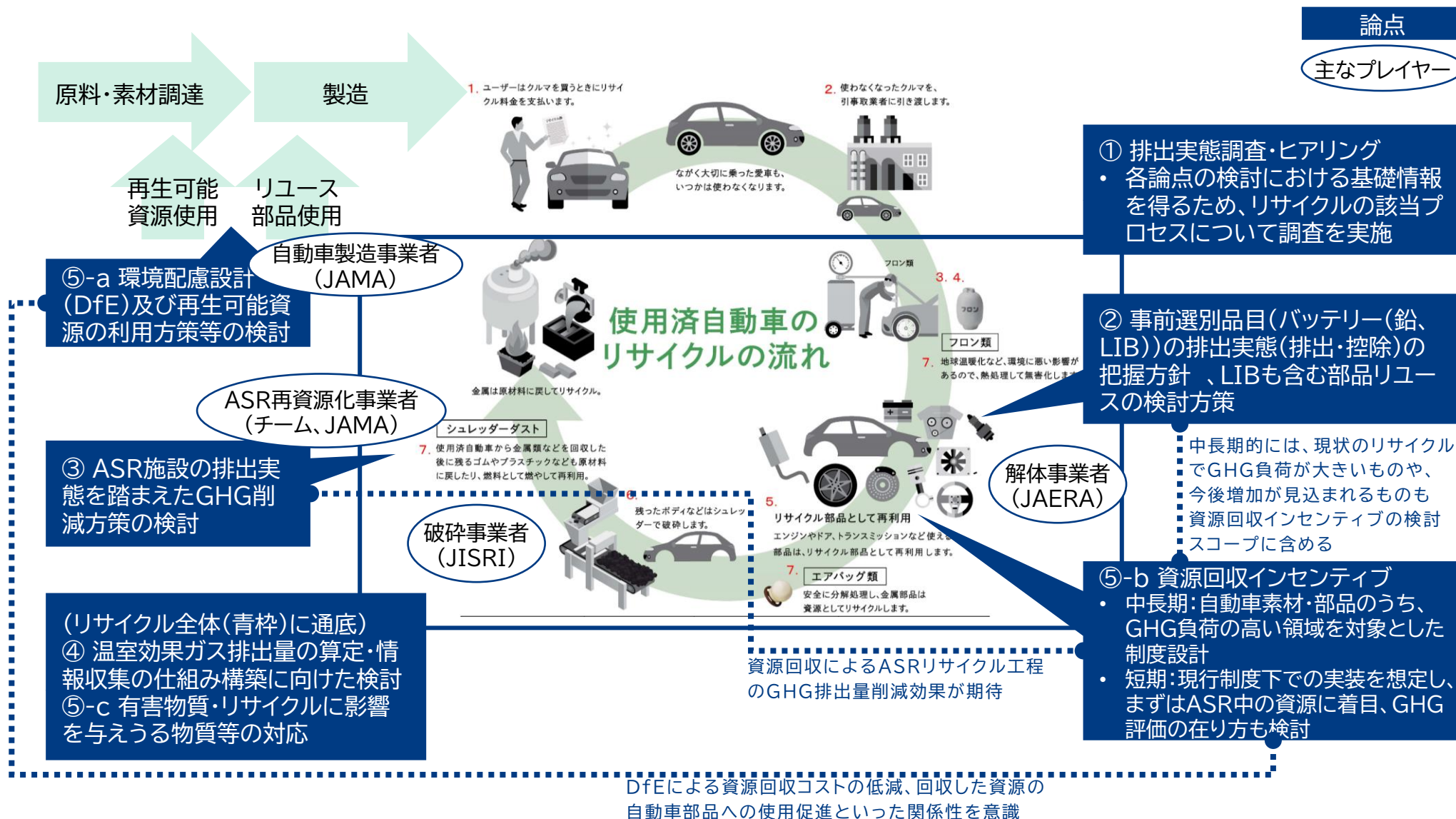
- ① 排出実態調査の調査(排出及び控除の考え方)及びヒアリング方針
- ② 事前選別品目(バッテリー(鉛、LIB))の排出実態(排出・控除)の把握方針 (※)、LIBも含む部品リユースの検討方策

※廃タイヤ及び廃油・廃液については、廃棄物・資源循環分野の脱炭素化の検討において取り扱うこととし、本検討会の検討対象からは除外する。

※LIBについては、蓄電池サステナビリティ研究会におけるカーボンフットプリント算出試行事業の結果も踏まえて検討する。

- ③ ASR施設の排出実態を踏まえた削減方策の検討
- ④ 温室効果ガス排出量の算定・情報収集の仕組み構築に向けた検討
- ⑤ 自動車リサイクルに係る3Rの推進・質の向上
 - a. 環境配慮設計(DfE)及び再生可能資源の利用方策等の検討
 - b. 資源回収インセンティブ
 - c. 有害物質・リサイクルに影響を与えうる物質等の対応

自動車リサイクルのカーボンニュートラル及び3Rの推進・質の向上に向けた 検討会 論点間の関係について(再整理)



出所) <https://www.jarc.or.jp/automobile/mechanism/recycleflow/>に吹き出しなど追加

本年度の検討会における議論の進め方(案)

- 第1回検討会でのご議論も踏まえた、本年度の検討会における議論の進め方(案)は下表のとおり。

	ご議論の観点		
	GHG排出実態把握 (論点①②③関係)	GHG排出量算定モデルの構築 (論点④関係)	資源回収インセンティブとCNの 接続に向けた検討(論点⑤関係)
第1回検討会 主なご意見	- 自動車リサイクル業界内の排出実態のばらつきが大きい。特に解体事業者は大手から個人経営まであるため、業界全体を把握できるようにすべき。 - 自動車リサイクルにおける直接的なGHG排出量だけでなく、リユース、リサイクル等によるGHG排出量削減効果も評価できないか。 - 自動車リサイクル自体のGHG排出総量に占める割合は小さいが、他産業との接続性や整合性を見ていくのか。	- 算定モデルが業界で活用されるための工夫や調整が必要。 - GHG評価について、どの程度のデータまでを追えば良いかを整理した上で、算定モデルを検討いただきたい。 - JARS大規模改造のスケジュールも考慮し、JARSで収集するデータも活用したGHG評価も検討すべき。	- 多くの事業者が参加し資源回収を促すべく、経済性の考え方も重要である。 - GHG削減対策について短期的に取り組むべきところを当面のターゲットとし、中長期的には2050年を目指してGHG排出量削減効果の高いところに取り組む、という方向性になる。
第2回検討会 ご議論内容 【本日】	- GHG排出実態把握調査の本年度アウトプットイメージ - これまでのヒアリング結果と検討への活用方針 ⇒資料3でご説明		資源回収インセンティブ制度の対象資源及びGHG評価の考え方 ⇒資料4でご説明
第3回検討会 ご議論内容 (予定)	- 本年度調査を踏まえたGHG排出量の推計精緻化の方向性(案) - 次年度以降の調査計画(案)	- 令和5年度公表に向けた算定モデルの構成・計算フローイメージ(案) - 次年度以降の算定モデル構築方針(案)	資源回収インセンティブ制度開始時点(※)における、GHG排出量算定方法(案) ※JARS大規模改造後の稼働開始と同時を想定